

第4回日本腎臓リハビリテーション学会学術総会

Morning Seminar

モーニングセミナー

維持血液透析患者の 症状をケアする 新たなワークモデル

—無侵襲皮膚刺激器具マイクロコーンとM-Testの活用—

座長：福岡大学スポーツ科学部 運動生理学研究室

教授 桧垣 靖樹 先生

演者：福岡大学スポーツ科学部

福岡大学病院東洋医学診療部

教授 向野 義人 先生

日時 2014年3月30日 日
9:00～9:30

会場 第2会場 福岡国際会議場 5F
501国際会議室

共催：第4回日本腎臓リハビリテーション学会学術総会／東洋レヂン株式会社

第4回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会モーニングセミナー抄録

維持血液透析患者の症状をケアする新たなワークモデル －無侵襲皮膚刺激器具マイクロコーンとM-Testの活用－

福岡大学スポーツ科学部

福岡大学病院東洋医学診療部

向野 義人

患者の症状、例えば、腰痛は身体の動きを負荷することで誘発されるか増悪するという特徴を有している。しかも、腰痛を誘発・増悪する動きは個々人で異なることを特徴とする。つまり、体幹後屈で腰痛が強くなるケースや体幹前屈ないし体幹側屈で腰痛が誘発されるケースなどがある。腰痛などを誘発・増悪するこれらの異なる動きそれぞれに対応した治療部位を見出すことができる方法がM-Testであり、M-Testで対処すると、身体の動きを負荷しても腰痛は誘発・増悪されなくなると同時に腰痛は軽減する。この現象は腰痛に限定されたものではなく、症状全体に共通した特徴である。

M-Testで見出された治療すべき部位にタッチ刺激として用いるのがマイクロコーンと呼ばれる皮膚を傷つけない無侵襲の刺激器具である。マイクロコーンは東洋レヂン（株）により開発された皮膚に貼付する円形状のブラシで、11mm²の円形状のブラシに約400本の微小突起が存在する。この微小突起が皮膚のメカノレセプターを刺激し、脊髄分節機構を介して選択的にC反射を抑制する。このC反射の抑制は内因性オピオイドを介しておこり、その結果、鎮痛が引き起こされることが基礎研究で明らかにされてきた。

維持血液透析患者は慢性化した症状を有していることが多い、しかも一人で同時に多数の症状を訴えており、身体の動きを負荷することでさまざまな症状が誘発・増悪される。症状は多岐にわたっており、運動器に関わりのある首、肩のこり・痛み、下肢のつり、腰痛、しびれなどや運動器と関わりのない頭痛、目がかすむ、めまい、動悸、便秘、かゆみ、不眠などさまざまである。それぞれの症状に対する薬剤投与には限界がある。

われわれはこれまで、これらの維持血液透析患者の身体の動きをM-Testで評価することで治療部位を見出し、マイクロコーンを貼付すると運動器に関わる症状も運動器に関わらない症状も同時に軽減してしまう現象を観察してきた。そこで、このセミナーではM-Testについて解説するとともに維持血液透析患者の慢性化した症状を対象にしてM-Testとマイクロコーンを用いたPragmatic Randomized Controlled Trialを行った結果を紹介する予定である。